

輝け！シン尾花沢中

第 9 5 号

令和 7 年

9 月 30 日

つたえゆかしい 校章よ おおむつましく 丘かげに

学校、家庭、地域における主体的関係性～北村山 PTA 研究集会～

9 月 27 日（土）、東根市サクランボタントクルセンターを会場に、北村山 PTA 研究集会が開催され、参加してきました。

講師は、なでしこ JAPAN「W 杯優勝」を陰で支えたチームドクターで、サッカー男女日本代表を今も支え続けておられる山藤賢先生（医学博士、昭和医療技術専門学校長等）。「令和の時代 私「たち」はどう生きるか～学校、家庭、地域における主体的関係性とは～」という



演題での講演は、山藤先生のお人柄に引き込まれるあっという間の 2 時間でした。

以下、印象に残った内容で、保護者の皆様と共有したいと思った箇所を紹介いたします。

- 誰もが教育者であり、教育の勉強が必要である。責任は、学校だけ、家庭だけではない。
- 人の役に立つ人間になるためには、「強さ」が必要である。
- 「自由」とは、「規律」あつての「自由」であり、「放縦」とは異なる。
- 「自律」できる人間が「自立」でき、「自走」できるようになる。
- 自分の機嫌は自分で取る。自分の機嫌の悪さを組織・集団に持ち込まない。
- 若いうちは大いに修行すべき、それが「生きる力」の強い若者を生む。
- 知らないモノ、セカイに共に触れたとき、人は互いに優しくなる。
- 頭の学びには限界があるが、心の学びには限界がない。どこまでも学ぶことができる。
- 誠実さ、自分や他人を尊重すること、責任感、思いやり、勤勉さを大切だと思ふ人を育てたいなら、大人がモデルとなるべきである。
- 夢も目標もなくてもいい。「イマを一生懸命生きる」ことが大切である。
- 「個人」と「組織・集団」を繋ぐものは「対話」である。「対話」の極意は、「伝えること」ではなく「聴くこと」である。「聴くこと」とは、相手を尊重して全身全霊をかけて聴くことであり、自分の在り様とも言える。
- 仕事でも学校でもみんなが仲良しでなくともいい。でも、相手のことは尊重する。
- 生きる上で大事なことは「他の人の喜び（幸せ）が自分にとっての幸せである」ことである。自分が幸せでなければ、他人を幸せにはできない。大事なことは、自分がどうあるか、ということである。

子供たちに、これからの時代を生きていく「強さ」を求めながらも、悲壮感はなく、それどころか、遊び心のある明るい山藤先生の教育観に大きな学びを得た 1 日となりました。

【文責：校長 工藤雅史】